

植物保護保湿剤 グリンナー のご案内



◆製品の規格：

名称= グリンナー
分類= 植物保護保湿剤（農薬ではありません）
種類= ワックスコーティング濃縮液
剤型= 緑色水和性粘稠懸濁液体
成分= ワックス 10.0%、乳化剤・色素・水等 90.0%

◆使用目的： グリンナーは昭和 32 年発明特許取得以後あらゆる植物に使用されておりましたが、樹木・茶・水稻・きゃべつ・なす・きゅうり等に対する比類なき蒸散抑制作用を評価され昭和 50 年に農薬登録いたしました。然しながら我が国の諸環境の大きな変化により平成 23 年予定の農薬登録更新を行わず登録廃止いたしました。今後は使用範囲・使用方法の規制はなくなりますが、農業用資材としての法令を遵守し、安全に留意され、使用者責任においてご使用願います。

◆グリンナーの特徴：

- ◎農薬登録第 1 3 4 4 5 号で登録した原材料、製法により製造しております。
- ◎極めて安全な原材料を使用しています。
- ◎展着性、柔軟性、伸長性、透明性など、非常に優れています。
雨、砂塵、風、乾燥、寒気、様々な傷から植物体を優しく強力にガードします。
- ◎形成された皮膜は、手でこすっても、降雨でも剥落しません。
- ◎光合成に必要な光の透過を妨げず、植物体の維持に必要な呼吸も妨げません。
- ◎水で希釈して撒布し、1～2 時間放置するだけでグリンナー皮膜が完成します。

◆製品の種類： 20ℓ 10ℓ タフテナー詰（パイプ式注ぎ口付属）
2ℓ 1ℓ スタンド袋詰（ネジキャップ付属）



1ℓ
2ℓ
スタンド袋詰

10ℓタフテナー詰

20ℓタフテナー詰

タフテナーの内容器は自立性があり、外箱なしで使用できます。
10ℓに短ノズルが、20ℓは蛇腹ノズルを改めて短ノズルが、それぞれ付属します。
使用済容器は切り刻んで廃棄できます。焼却してもダイオキシンは発生しません。

◆製品の保証： 「効力有効期間」は、製品ラベルに明記した「製造年月」から、適正環境下で 2 年間以上ありますが、万が一期限内に「品質異常あり」と思われた場合には、たとえ一部使用済みであっても交換・返品させていただきます。

<グリーンナー液が乾燥した後に形成される被膜の特性について>

※グリーンナーは、本来水に溶けないワックス 10%と水 90%とを、特殊製法と乳化剤を用いてミクロの細かさまで分散して、混ぜ合わせただけの物ですから、

◆一旦凍結し、または有効期間を経過した製品は、成分が集合・沈殿し、効力を失ってしまいます。

※グリーンナー被膜は、0.02~0.1 マイクロメートル(千分の一ミリメートル)の微細な間隙(孔)が無数にちりばめられた状態にありますから、

◆希釈倍数が大きくなると、この微細な間隙(穴)が大きくなり、その結果としてガスや水蒸気の通過量が増大し、保湿度(蒸散抑制率)が小さくなります。

例えば、グリーンナーを使用しない時の蒸発通過量を 100 とした場合、20 倍希釈では 50、10 倍希釈では 40、5 倍希釈で 25 程度になります。

◆この微細な間隙(孔)が埋まってしまうので、1 週間以内の二度塗りは、行なわない。

※グリーンナー被膜が、色々な効果をもたらすのですから、

◆撒布前の葉面に水滴がある場合や降雨直前の撒布は、被膜が形成されなくなるので散布しない。
また、本剤撒布直後の散水も同様に行なわない。

※グリーンナー被膜は、淡緑色透明で、強靱で、しかも伸びますから、

◆光合成に必要な光の透過を妨げず、雨、風、砂塵、乾燥、寒気、霜、病菌などから植物体を確実に保護します。

◆一旦完成した被膜は、植物体に密着し、かつ植物体の伸長に応じて伸びますが、伸長度が大きくなり過ぎた場合は、被膜に亀裂が生じて徐々に効果が低下します。

即ち、被膜の効果持続日数は、希釈倍率に関係なく、植物体の伸長度に関係します。

例えば、成長が止まっているような植物体では数ヶ月間効果が持続し、表皮が硬く成長が遅い植物体では1ヶ月程度、柔らかく成長が激しい植物体では4~14日間となります。

◎撒布液の作り方

①容器をよく振ってから必要量を取り出す。②水で所定濃度に希釈し、よく混和する。

③できるだけ使いきり、撒布液の貯蔵は避ける。

④原液でも 100 倍希釈以上でも、植物体には害は一切ありません(人や動物、土壌にも無害)が、昭和 38 年以來の弊社実績から、標準となる 1 回撒布の場合の希釈倍率は次のとおりです。

- ・移植する樹木には 5 倍希釈、
- ・水稲、芝などの作物には 10 倍希釈、
- ・蔬菜の苗などの軟弱物には 15 倍希釈。

複数回撒布する場合や、軽度の保湿(蒸散抑制)を望まれる場合は、それぞれ 10 倍希釈、20 倍希釈、30 倍希釈でも可。

◎使用方法

・細かい霧の出る(120 メッシュ程度)噴霧器を使用する。

・葉面に水滴がある場合、降雨や降雪の直前、高温時、強風時等の撒布は避ける。

・斑にならないように葉の表裏および枝・幹にも、丁寧に噴霧する。

・撒布後 1~2 時間で完全に乾燥するまでは、撒布面に触れない。

◎使用后

①噴霧器及び容器類に付着したグリーンナーは、乾燥して被膜形成される前に、よく水洗する。

特に噴霧器のノズルは、膠着して穴が詰まることがあるので十分水洗しておく。

②概ね 5~50℃の範囲の屋内で、日光や照明光を避けて、密栓して貯蔵する。

◎その他

・本剤は、毒性は低いですが眼に対して弱い刺激性があるので注意し、眼に入った場合には直ちに水洗する。

・対象植物以外に撒布液が付着した場合、乾燥してしまう前であれば水、石鹼、花王社製マジックリンなどで洗い落とす。

製造発売元：グリーンナー 有限会社

大阪府堺市東区日置荘原寺町 226 番地 10

電話 (072)286-3312 電書 (072)286-3331 <http://www.greenner.co.jp>